

マルチメディアプラットフォームとしてのマッキントシュ

仁井雅雄
仁井プロタウンニュース

アップルコンピュータ社が2年前に発表したマルチメディアの世界を日本の企業が実際に作品としてどの様に活用しているかを、検分しながらマルチメディアの有用性と核心に迫る。また今後の動向、マルチメディア概念の統一をマッキントッシュの将来性を加味しながら述べる。

Macintosh : Maruchi Media's top station

While analyzing Maruchi Media's usefulness, Japanese Companies, in fact, are maximizing their resources by introducing apple computer to Maruchi Media's world 2years ago.

And the next movement mentioned was the possibility of Maruchi Mwdia's standard concepts to be included in the Macintosh's poospects

画像データベースという考え方がやっと最近企業の中にも定着してきたようです。今まで数字だけでデータのすべてを理解しようとしてきたことに無理を生じていました。そこでデータベースという考えのなかに画像／音声を取り込んでもっと付加価値をつけ情報の共有化をはかり、コミュニケーションの材料にも使うという新しい考えが生まれてきたようです。そこには単にデータを吸い上げてきて閲覧をするということではなく、それぞれがユーザとして、情報をアップデート出来るのです。

また膨大な画像データを取り扱う場合においても映像部分をレーザーディスクプレーヤー若しくは追記型のビデオディスクに納めることにより、ハード本来のスペックを落とす事なく制御出来ることも利点です。マクロマインドディレクタが新しい電子メディアとして効果的な使用法を説明しましょう。

1. デスクトップビデオプロダクション

マクロマインドディレクタで作成したアニメーションまたは、他のアプリケーションのPICSデータをマクロマインドディレクタ上で編集し、コンバータを使い VHSテープに落とします。このレベルだと社内用またはイベント素材にしか使用できませんが、コマ取りコントローラとコンバータでベータカムに落とせばテレビ素材として十分に使えます。

またビデオキャプチャーボードを併用することにより、簡易ビデオ編集システムにも使えます。

2. 画像データベース

商品カタログを、マクロマインドディレクタのLingo機能によりインタラクティブなデータにし、必要なときに、すぐにとりだせるデータベースを作成します。画像データをMacintosh側に持たせるか外部映像データとして持たせるかはLingo機能を操ることにより、自由に選択できます。考え方を変えれば、マニュアルの形式にもすべて当てはまります。この画像データベースの汎用的な使い方としてイベント素材や、社外プレゼンテーションにもそのまま使えることです。またプログラムにより、画像データベース作業中のバックグラウンドにおいて統計を取ったり、テキストデータベースを構築をさせることもできます。ネットワーク上では数字とテキストデータのやりとりさせることもできます。それが商品カタログであれば、メンテナンスの時期やDM管理用としても使えます。

3. セクレタリー業務

スケジュール管理、プロジェクト管理、受け付けシステム等プログラムの組み方によってあらゆるセクレタリー業務に対応させることが出来ると思います。

マルチメディアプラットフォームとしてのマッキントッシュ。そのMacOS上で走るマクロマインドディレクタには使う側の用途に合わせながらデータ構築ができるというフレキシブル対応になっています。最近の企業プレゼンテーション及び、教材等のマニュアルをマクロマインドディレクタによって作成するという事例が大変増えてきています。特にデータの中でアニメーションを使用したい。音声、サウンドエフェクトを効果的に使いたい、複数のメディアを制御したい、今後の電子メディアの在り方として必要不可欠な要素をおそらくすべて満足させてくれるでしょう。

仁井プロ・タウンニュース
仁井 雅雄